

こひつじ文庫だより 62号

2021ふゆ



『やさしいひつじかい』

光原百合 文 佐々木洋子 絵
女子パウロ会

やさしい羊かいが、100匹の羊をたいせつに育てていました。ところが、ひねくれものの羊の「ヒネ」は、羊かいが大切にするのは、りっぱな羊やかわいい羊だけだと言います。そして、小屋から出て行き池でおぼれそうになります。羊かいは助けにきてくれるでしょうか…やがて、クリスマスの夜、ほんとうの愛がこの世におとずれたことを、羊かいと羊たちは見ることになります。



『くつやの まるちん』

トルストイ 作 渡洋子 訳
かすや昌弘 絵 福音館書店

あのトルストイが童話も書いた作家であると知り、それ以来、いつとはなしに「まるちんおじいさん」にあいたくなる、ふしぎな絵本です。悲しいまるちんおじいさんは、毎日毎日しごとにはげみ夜には、聖書をよみます。するとなぜだか、心がやすまりました。ある日、夢の中で「あした会いに行くから、待っておいで」とキリストさまの声をききました。どきどきしながら、読み進みます。さて、まるちんおじいさんはキリストさまに会えたのでしょうか。

みなさんおげんきですか
こひつじ文庫の本の中から
クリスマスの本を紹介してみました。
こひつじ文庫にはほかにもたくさん本があります。
お気に入りの本をみつけに、きてくださいね。

岩崎 謙 館長先生のおはなし

「こひつじ文庫」の羊の人形

羊の人形を玄関先に出すことは、こひつじ文庫開館のサインです。休館のときは、休館のお知らせを人形につけることもあります。この羊の人形は、こひつじ文庫のシンボルです。

聖書には、羊飼いであるイエス様が、迷子の羊をさがし出してくださるお話があります。その話をするときに文庫の羊の人形を用いると、子どもたちの顔がほころびます。また、人形を運ぶたびに、「みつけたら、喜んでその羊を担いで」(ルカ 15:5)と語られている羊の重さをも、連想します。実際の羊はかなり重かったはずですが、クリスマス、さがしだし背負ってくださるイエスさまの愛を思い起こしましょう。



こひつじ文庫のホームページはこちらから

<http://www.shinkou-kyoukai.org/>

『とってもふしぎなクリスマス』

ルース・ソーヤー 作 掛川恭子 訳
バーバラ・クーニー 絵 ほるぷ出版



クリスマスの夜、スイスの谷間の村の貧しいつ屋は3人の男の子に留守番をさせて、働きにでかけました。そこにちよっぴりひねくれた小人の妖精ゴブリンがやってきて、しあわせをもたらせます。ルース・ソーヤーのお話とバーバラ・クーニーの絵が、やさしく暖かい物語をつくりあげています。“シュニツル、シュノツル、シュヌーツル!”

『パディントンのクリスマス』

マイケル・ボンド 作 松岡享子 訳
ペギー・フォートナム 絵 福音館書店

パディントンの
クリスマス



映画でもおなじみの「くまのパディントン」この本には、パディントンがかつやくするお話が7つ。中でもおすすめなのは、「パディントンのクリスマスの買物」(大きなお店で物干しのつなを買うために大騒動がおこります)と「クリスマス」。パディントンがイギリスですごすはじめてのクリスマスは、思いやりにあふれたすてきなものです。あなたもパディントンと友だちになって、あたたかなクリスマスをお楽しみください。



『カロリーのクリスマス』

ピエール・プロブスト 作・絵
山下明生 訳 BL出版

いよいよ明日はクリスマス。カロリーヌとゆかいな8ひきは、今年もりっぱなクリスマスツリーをかざろうと、みんなが1年かけてためたお金を集め、もみの木を買いにでかけます。でも途中で会った貧しいバイオリンひきのおじいさんや、こどもたちのためにお金を集めているサンタのおじいさんに、ほとんどのお金をあげてしまったので、小さなもみの木しか買えません。カロリーヌたちは森へもみの木を切りに出かけ…そこでふしぎなことがおこります。さて、どんなクリスマスイブになったのでしょうか。

こひつじ文庫は
毎週土曜日午後2時から4時まで開館しています。

ひとい5冊まで1か月貸し出しています。

ただし、緊急事態宣言、まんえん防止等重点措置
のときは

開館はせず、返却ボックスでの返却のみです。